聖書日課 『からし種』 2026.11.22－11.29

11月 22日 （日） 歴代下 21章	**「主は、ダビデとその子孫に絶えずともし火を与えると約束されたからである」（7節）。**ダビデとその子孫、みなそれぞれ欲に負けたりほかの神に迷ったり、失敗した彼らの間に、神の国への希望のともし火はくすぶる灯心のようになりながら、ただ主の約束のみにより受け継がれていった。マタイは、そのともし火がキリストにたどり着いたことを記したかったのだろう。
23日 （月） 歴代下 22章	**「王女ヨシェバがアハズヤの子ヨアシュを抱き、殺されようとしている王子たちの中からひそかに連れ出し…彼は殺されずに済んだ」（11節）。**王女ヨシェバは祭司の妻。王族の争いから王子を助け出し、祭司の保護下に逃すことのできる絶好の立場にあった。この時のためにこそ自分はここに置かれたと悟ったのだろうか、機を逃さず役割を果たした。
24日 （火） 歴代下 23章	**「そこで彼らは王子を連れて現れ、彼に冠をかぶらせ、掟の書を渡して、彼を王とした。ヨヤダとその息子たちは彼に油を注いで、『王万歳』と叫んだ」（11節）。**「王万歳」の叫びの陰で、誰かの血が流されるようになったのは、いつごろからだろう。喜び祝って奏でる楽の音に、誰かが恐怖するようになったのは。国の平穏のため、誰かが殺されるようになったのは。
25日 （水） 歴代下 24章	**「ヨアシュは祭司ヨヤダの生きている間は主の目にかなう正しいことを行った」（2節）。**幼児期を人前から隠れて過ごし、7歳で王とされたヨアシュ。ヨヤダはヨアシュを熱心に導いたようだが、単独者として主に向き合うことは教えたのだろうか。独りになったヨアシュは、高官たちに誘われるまま偶像に仕え、母の胎の中のように守られて育った神殿の庭で人を殺す。

メール配信登録メール　senfkorn.obc@gmail.com

メール配信希望の方は名前とアドレスを明記の上、上記のアドレスまで

聖書日課 『からし種』 2026.11.22－11.29

26日 （木） 歴代下 25章	**「彼（アマツヤ）は主の目にかなう正しいことを行ったが、心からそうしたのではなかった」（2節）。**「正しいこと」を「心から行ったのか」が問われている。でなければ、正しい行いは続くまい。アマツヤの言動はやがて矛盾をきたし、果ては謀反で殺害される。それでも主がかつての正しい行いを覚えてくださったか、大切に先祖の墓地に葬られたことには慰めがある。
27日 （金） 歴代下 26章	**「彼（ウジヤ）は勢力を増すとともに思い上がって堕落し、自分の神、主に背いた。彼は主の神殿に入り、香の祭壇の上で香をたこうとした」（16節）。**ウジヤ王は主から豊かな賜物を受け、軍事、建設、農業、技術などで成功した。しかし、人には主によって置かれた立場がある。主に仕える80名余りの祭司たちを彼は助ける立場にあり、干渉してはいけなかった。
28日 （土） 歴代下 27章	**「民は依然として堕落していた」（2節）。**列王記では、この民たちは「その聖なる高台でいけにえをささげ、香をたいていた」とある（列王下15：35）。ウジヤに替わったヨタム王の治世は、門を建て城壁を工事し、町や城砦や塔を築き、アンモンと戦う。労働や兵役に徴用された民に、主の掟を学ぶ時はあったのか。とにかく何かに寄り頼むしかなかったのではないか。
29日 （日） 歴代下 28章	**「そこで兵士たちは…捕虜に衣服を着せ、履物を与え、飲食させ、油を注ぎ…」（14－15節）。**イスラエルの兵士たちは預言者オデドの言葉に従って、捕虜たちに衣服と食べ物を与え、弱った者をろばに乗せて、ユダの地に送り返した。このように神の言葉に従う兵士たちと、神の言葉に腹を立てて戦い多くの血を流す王と。歴史の主はすべてを見ておられる。

大井バプテスト教会